

令和3年度 高知県文化芸術振興ビジョン評価委員会（第2回） 概要メモ

日時：令和3年10月26日（火）14:00～16:00

場所：公文書館3階会議室（高知市丸ノ内1-1-10）

出席者：＜委員＞

宮田委員長、小林委員、都築委員、川鍋委員、西田委員、谷委員、吉澤委員

＜事務局＞

文化生活スポーツ部 岡村部長、文化財課 中内課長（オブザーバー）

文化振興課 依光課長、松本補佐、森田チーフ、柳井、西村

文化財団総務部 戸田部長

＜議題＞

- （1）ビジョン改定案について
- （2）後期行動計画について
- （3）文化人材育成プログラムについて

＜意見交換＞

宮田委員長	行動計画については、それぞれ予算措置を伴うものだと思うが、ざっくりした予算措置は考えられているのか。
依光課長	各課に照会したときに、ある程度、予算化をする意向のあるものをあげてもらっている。
小林委員	せっかく改定案を出すのであれば、前期の簡単な評価を前振りに入れたらどうか。前期はこんな感じで進められた、こういった成果があった、新型コロナウイルスのせいでこんなことになってしまったというような説明的なものが、扉にあれば良いと思う。それと後期に向けての課題を、前期こうだったから後期はこういうふうな形でというようなことを明確にした方がよいのではないかと思った。
宮田委員長	年度毎の評価は行っているが、5年まとめた評価は確かにあまりやってない、どうか。
依光課長	コロナのことがあるので、成果というものは難しいという実感はあるが、後期にむけて振り返ることは必要かと思うので、考えてみたい。
宮田委員長	数値目標を達成のしようがないのはやむを得ないこと。他の面で、5年間毎年やってきた評価、全体としてみれば、コロナの影響もあったけれど、こういうところがよかった、新たにこういうことをやっているところだということ等、ざっくりとしたものでよいと思う。

小林委員	<p>コロナのことは是非書いた方がよいと思う。うまくいかなかったけれどもこんなことができた等。例えば、鑑賞事業では、コロナの間、オンラインで見る人が増えたと聴いている。</p> <p>文化庁文化審議会の中間評価で、あまりにも鑑賞者数が多くて、むしろ驚いたということがあった。オンラインの配信で色んな所から見られるという、その部分の成果は評価ができるころだと思う。特別な状況だったので、批判的に見るというよりもできたことを積極的に捉えていく必要があるのではないかと思った。</p>
宮田委員長	<p>オンラインでの参加者数は、ある程度把握できるものか。</p>
依光課長	<p>「まんが王国・土佐」の推進等の事業については、オンラインで目標数値を達成しているので、やはり成果はでていているということはそういったところからも分かると思う。</p>
宮田委員長	<p>オンラインの方が見やすかったというメリットもあるかもしれない。そういったところもある程度評価に入れてよいと思う。</p>
都築委員	<p>日常的に文化芸術に触れる機会の少ない子どもたちに、できれば年1回くらい、美術館へ行く等の機会を用意してあげたい。学校に来てやっていただけるのはありがたいが、そこから先に、美術館へ行くということに全く繋がらない。特に今、コロナで学校が疲弊していて、先生もそれどころではないので、ワークショップを企画しても、ありがた迷惑なんじゃないかとこちらが心配するような状況。教育現場では、更に、コロナの影響で不登校が広がる等、それらの支援をどうするかに追われており、文化どころではないようなことになっているが、どこかで文化が関わって助けになればと思っている。</p>
吉澤委員	<p>コロナの後、どうするかが重要だと思っている。</p> <p>一つは、リモート環境ができたという非常にプラスの面。もう一つは、資料2のP3「文化芸術の発表の場」の関係。ラララ音楽祭が昨年今年度と中止になり残念だったが、では次どうするかというところで、どういう基準でどういうふうにやればコロナを脱出していける、というようなひっぱり上げるものがないと、このままなくなっていくイベントが結構あるような気がする。コロナの出口として、支援する行政が指針を示すようなことが大事だと思う。</p>

宮田委員長	<p>コロナが収まってきているなか、やってよいのか、民間だけだと踏ん切りがつかない。行政がイベントと一緒にやろうという形を作っていくことで気持ちをもう一步前にもっていくことができると思う。</p>
都築委員	<p>先ほどの話に関連するものとして、奈半利町のイベントが結局中止になった。これだけコロナが収まってきて県内で1桁ぐらいしか出ていない状況になっても、地方ではものすごい危機感があって、やっぱりやめようみたいな空気が非常に強い。香美市立美術館も「県立美術館が開いていたら開けてもよいが、できれば閉めてほしい」というような、ずっとそういうスタンスだった。地方は県の動向を見ながら動いているので県の動向は非常に大きい。</p>
宮田委員長	<p>高新文化厚生事業団の助成事業なども、例年であれば春秋併せて20～30件は応募があるが、今年の春は9件しかなかった。今まで郡部から申請が出てきていたが、出てこなくなっている。郡部の方がしんどい状況。</p>
川鍋委員	<p>最近では感染者が減ってきたが、須崎市でも先週日曜日は商店街でのイベントができ、ライブコンサートなどを開催した。飲食はテイクアウトに限るとか、酒類は販売できないとか、室内の中に演奏者が入ってそれを商店街の通りから聞く等、主催されている方も色々と工夫しながらどんな形で続けていけるかを模索している。ただ、地域のイベントになると、文化活動と飲食は一緒になって取り組むことが多いので、なかなか飲食の方がまだ、活動再開までは難しいので、どうすればよいかと思う。</p>
宮田委員長	<p>高知はどうしても飲食、お酒に関わる文化が特徴のようなところもあるので、飲食が駄目といわれるとイベントもやりづらい。先日の豊穰祭もテイクアウトばかりで、それだとなかなかお祭りにならない。</p>
西田委員	<p>P7の県立文化施設の来館のところだが、文学館が現在開催している銭天堂やウルトラマンの展示等、文学館独自の企画展について全国から評価されている企画展を実施している。こういった学芸員が力を発揮しやすいような環境を作ってあげるとよい刺激になると思う。企画があった場合には、すくい上げるような仕組みがほしい。</p>

宮田委員長	美術館だからこういうものでないといけない、というような概念を少し外すことで、面白いものが出てくるということがある。それぞれの館の学芸員の発想や民間の発想もあるので、そこをうまく取り上げていける形ができればまた違ってくると思う。
西田委員	内側から大きな取組につながるような制度を作っていけたら、文化振興ビジョンの原動力になるのではないかと思う。
谷委員	<p>1年以上、文化芸術は不要不急かを考えていたが、絶対そうではなく、人々の心の豊かさであるとか、一番大事ななくてはならないものではないかと思う。</p> <p>まんが甲子園が先日テレビ番組で取り上げられており、オンラインで高校生が青春をぶつけて思い切り取り組んでいるのを見た。これからは、オンラインもやり、じかでもやるという幅広いやり方がとられないといけないと思った。</p> <p>P7の「幼少期から文化芸術にふれる機会の充実」のところ。県民世論調査でも「文化芸術の振興について特に力を入れるべきものを何ですか」という問いに対して、県民のアンケートの回答で1番だったのが「文化芸術の鑑賞体験できる機会の充実」だったが、子どもの時からずっと鑑賞や体験等をさせたいし面白いと思わせたい。事業内容の中に、「県立文化施設の出前講座の充実」があるが、出前にちょっとこだわりすぎているのではないかという感じがする。「講座の充実」でよいのでは。子ども達にどんどん参加してもらえるような鑑賞講座やおもしろい芸術体験等、出前だけでなく館内の講座も充実させてほしい。</p> <p>今後5年間、そういった方向に舵を切るという面がほしいように思う。</p>

<p>小林委員</p>	<p>今の話にとっても賛成する。出前授業も大事だし、子どもたちが文化芸術に触れるということもとても大事なことだと思うが、やはり施設それ自体をちゃんと活用することが大事。収蔵品も含めて。そこに来てもらって体験してもらい、またリピートしてもらおうということを考えた時に、施設の中身、コンテンツの充実が大変大事であると考えている。</p> <p>「県立文化施設の利用促進」のところで、例えば美術館5万人とか、歴史民俗資料館3万人、坂本龍馬記念館16万人などの目標値があるが、算出の根拠は何に基づいて出しているのかとても気になっている。</p> <p>例えば、高知城は将来的な目標値が35万人となっており、とても良いと思うが、例えば天守に行った人にそのまま高知城歴史博物館に来てもらうということを考えてもよいのではないかな。</p> <p>県内の観覧者数だけでなく、もう少し一体的に色んなことを考えてもよいのではないかな。コロナの関係で色んな産業に影響が出ていると思うが、例えば美術館や歴史民俗資料館でも活用の仕方によっては、外国人観光客を十分呼べると思う。そもそもそういう繋がりで見られているかなというのが気になった。観光でリピートしてもらうためには、質の高さが求められる。高知は、文化的にも自然的にも豊かで、資源もたくさんあると思う。それをもっと伝えられるような中身の濃い文化発信の場所として、もう少し文化施設を活用した方がよいのではないかな。それに加えて目標値は何を根拠にしているのか、もう一度考えた方がよいのではないかなと思った。県民と観光客を入れて何人にするとか、周遊できるような仕組みを考えていくと、文化が観光にも活用され、あるいは観光に来た人達は高知の文化をよりよく知ってもらうというすごく重要な意味があると思う。結局中身を充実させることが大事だと思う。</p>
<p>宮田委員長</p>	<p>目標値については、これまでの入館者数の傾向等をベースに決定しているとは思いますがどうか。</p>
<p>依光課長</p>	<p>集客目標は、県内外や日本国内外等で特に分けているものではない。県外の方の比率が高いのが坂本龍馬記念館で90%くらいが県外の観光客。高知城歴史博物館は年間8万5000人を目標としているが、50%以上が県外観光客の方であり、コロナでこの二つの館が非常に厳しい状況となっている。</p>

	<p>高知城は県内の観光地としても、ナンバーワンの集客を誇っており、高知城歴史博物館では、高知城とのセット券もあり、来館者には必ずセット券があることを伝えているが、観光客のすべてが両方行くわけではない。高知城ともっと連携していけたら、来館者も増えるし、理解も深まるのではないかと思う。</p> <p>観光と文化の連携は課題となっており、観光の方でも高知の歴史をPRしており、文化の方でも来ていただいた方により高知県らしいものを見ていただくということを意識しているところ。</p>
宮田委員長	<p>今お配りしたレジュメは、前回も話したことだが、6月に内外情勢調査会という時事通信がやっている講演会で、日本の城郭考古学の千田嘉博氏（奈良大教授）をお呼びして講演いただいた時のテープ起こしを抜粋したもの。</p> <p>簡単にいうと、高知城は城は一流、管理が三流であるという。バリアフリーも含め、展示の仕方、ベンチの設置など何もかもがなってないと言われた。要は、管理しやすいように作っているだけで、それを見る人の目線で管理されてない。展示物に至っては、駄目になるために置いてあるような感じがする、温度管理が出来てない紫外線も防げない、実物資料は消失してもよい、壊れてもよいと思っているような感じがするとのこと。基本的に厳しいご意見だった。指定管理で民間に任せるのは非常に良いことでもあるが、任せきりにしてしまうと、とんでもないことになっている例ではないかと非常に心配した。県議の方も1、2名講演を聞いていて、これはちょっとという感じだったが、専門家からのよいアドバイスだと思うので、是非参考にさせていただいて、是非直せるものは直していただきたいと思ってコピーをしてきた。後でゆっくり読んでいただきたい。</p>
吉澤委員	<p>SNSでの情報発信のところにホームページでの情報発信があるが、商売の世界では、もし若い人達に来てもらう、買ってもらうという時に、何が一番重要なツールなのかというと、圧倒的にSNS。その中でも女性ならインスタグラム、若い方が圧倒的に使ってるのはツイッター、YouTube、一番簡単なのはTikTokであったり、若い子たちはスマホでそれしか見ない等そういう状況の中で、こういう感じの取組だとちょっと弱いかなと感じる。若者相手ならもっと専門の若い担当に任せた方がもっと興味を持ってもらえるのではないかと。</p>

<p>宮田委員長</p>	<p>若い子はこういうのは興味がないだろう、と我々が勝手に思い込んでこちらが遮断しているのではないかと時々感じることもある。最近選挙に行こうというハッシュタグを付けたら、結構広まったりするので、我々は若者は選挙に行かないなどと言っているが、まずどこに呼びかけるかを考えないといけない。SNSでそういうハッシュタグを付けるだけで広まるということがあるので。若い人の意見を入れてこういう行動計画を立てるとまた違ったものが出てくるのではないかな。</p>
<p>小林委員</p>	<p>学生と話していると、ホームページが更新されてないということにとっても違和感を覚えるようだ。ホームページの充実でアクセス数を拾うのもよいが、何回更新するということを目標にする方がよいのではないかな。一週間に一度、とか二週間に一回更新するということを目標値にすると、また違うかなと思う。SNSの発信だと、役所なので情報発信の可不可等色々あると思うが、そのあたりをもっと自由な取組ができるようなルール作りを目標にするとか、自由に色々やってもらうための取組数を目標値にしてはどうか、これは提案。</p>
<p>吉澤委員</p>	<p>街角ピアノが流行っている。県内にも窪川や奈半利の駅等、色んなところにあるが、もっと活用することはできないかな。こういったものを支援する仕組みを行政側から提案できないかな。子どもたちが芸術に触れる場所が色んなところがあればよいと思う。</p>
<p>小林委員</p>	<p>前から高知県で非常に気になっていることが、伝統工芸品産業の振興のところの土佐和紙についてだが、伝統的工芸品や産業の分野で高知県の果たしている役割は大変大きいと思う。先日、文化財の保存修復や原材料の問題について話し合う会議に出ていたが、和紙について高知の生産しているものが品質がよいが衰退の危機にあるという話が出ていた。とても重要な問題で、次の人材育成等に関わってくる問題だと思うが、産業等後継者育成事業については、関心を持ってもらえるが繋がらないのが課題ときく。これをちゃんと推進していくためには、要は仕事を発注するしかないのではないかな。</p> <p>今まで継承事業や版画トリエンナーレ等も実施してきているが、伸びないのが気になっている。今までのやり方をもう一回考え直して、よいやり方がないか考えてほしい。</p>

宮田委員長	<p>土佐和紙は、製品を一般の方がもっと使えるものを生産していかないといけない。日用雑貨など使えるものを作っていくことが大事だと思う。産業として成り立てば後継者が出てくる。</p> <p>新潟の燕三条へ何年か前に行った際、とても切れるパン切り包丁を求めたら1年待ちですと言われた。また、ペンチ式の爪切りで1万円位するものだが、3ヶ月待ちとのことだった。町工場を廻ったら若い人がたくさん作っている。ノーベル賞の晩餐会で使われるような食器を作っているところであり、ブランドになっている。高知の和紙もブランドだが、日常的に我々が使うことがまずない。そこを工夫してほしい。</p> <p>伝統工芸品を今の生活様式に合わせた製品化をしていくということが大事なのではないかと思っている。</p>
～文化人材育成プログラムについて～	
宮田委員長	今年度は何名くらいが参加したのか。
依光課長	3回目が終わっており、100名足らずが受講した。オンライン講座としており、かなり受講者が増えている。県外や海外からの受講者もあり、オンラインにしたことでかなり広がりが出てきている。
宮田委員長	講座を受けて、それを自分の職業にしようという意思を持って参加する人が多いのか。
依光課長	中にはいるかもしれないが、実際には他に何か仕事をされて、文化芸術活動をされている方が、数としては多いと思う。
小林委員	KAP 事業はいくらくらいの助成金が出るのか。
依光課長	30万円。
小林委員	30万円だとやれる範囲がとても限定的になる。大型のプロジェクトだと何もできないという感じがするが、高知県にはアントレプレナーシップ制度はあるのか。
依光課長	部署は変わるが商工労働部の方で所管をしている。
小林委員	<p>そちらの部署とも、もう少し連動してもよいのではないかと思う。この人達が何らかの形で県内で活動してくれればよいので、KAP 事業をやりつつ、創業支援のようなものに誘導すればよいのではないか。</p> <p>人材は、高知県で活躍できる場所を県が示してあげないといけないと思う。これだったら高知県でやれると思っていただくため。これま</p>

	<p>で受けられた方で成功している方のベスト事例を示す等、見える化してはどうか。</p> <p>また、資金繰りをどうするかはとても大事なことで、例えばクラウドファンディングを使う等も学んでいくと思うが、補助金だけでやっていくわけではないと思うので、色んなものと総合的にやっていけるような人材がこれから必要だと思う。そういうことも考えられているのか、念のため確認させていただきたい。</p>
依光課長	<p>それぞれ考えていきたい。</p> <p>他の助成金なども紹介するようにしたい。文化庁等の助成金等は、団体等へお知らせしているが、そういったものも活用できるようにしていきたい。</p>
宮田委員長	<p>例えば、トリエンナーレ展という版画展に文化が関わっていない。版画展なので、商工だけでなく文化ももっと関わって、あるいは両方がやるというようにしないと。そこをもうちょっと県庁内で横串を差したような体制がとれないかと毎回思う。</p>
小林委員	<p>きっと今までも色々な取組をされているが、自分の所だけでやっているのでは展開が見られない。他の課とも知恵を出し合って、新たな事業を始めるよりも、今までの取り組みをよりよくする方法を考えるための展開を図るといのが芸術文化基本法改正の目的でもある。運営組織のあり方を庁内で考えてはどうか。民間では簡単に乗り越えそうなことが行政では以外とできないことがある。</p>
吉澤委員	<p>県と市町村との繋がりについても、もっとうまくできるのではと感じる。楠瀬さんも市町村で文化財の保存活動を行っているのは行政の手が足りないから。地域の人たちに文化財を整理したりする技術を持ってもらい、地域の無形文化財を後世に残すという活動をしているが、歴史文化を残すすべをまだ持っていない所を行政が支援することが、教育プログラムではとても大事はないかと思っている。</p>
宮田委員長	<p>県史編さんが始まったばかりだが、今が最後のチャンスだと思う。いろんな資料をまずは集めることからしなければいけないが、以前は学校の先生がされていたことを、今では学校の先生に余裕がないので、人材不足が深刻になっている。人材を育てるために、特に県だけでなく市町村の教育委員会との連携がものすごく大事だと思う。</p>
小林委員	<p>ラストチャンスということは全国的に言われている。</p>

	<p>先日 NHK の番組で、高齢のご夫婦が所持している昆虫採集の標本で素晴らしいものがあり、高知県内の資料館で保管したいが、受け入れてもらえる場所がないということが問題になっているという番組を見た。博物館の収蔵庫が小さい等ということが全国的に問題になっている。過去の様々な生きた人々の活動の証として、資料として残っているものについては、上手に収集保管していかないといけない。自分たちの文化を守り伝えていくために必要なこと。市町村と連携しながらやらないとすごくもったいないと思う。</p> <p>素晴らしいものがあるのに受け継いでいけるような体制にないということは、次の 10 年の課題かもしれないが、今やれることはあると思う。何がどこにあるかの調査は、過疎化高齢化が進むなかで皆が連携して取り組まねばならない問題。是非、市町村の教育委員会や民間ボランティアの人達と連携しながら急いでやらないといけないことだと思う。</p>
宮田委員長	<p>団塊の世代がリタイヤして暇になっている。人材育成というと若い人と捕らえがちだが、もっと幅広く年を取った人も対象に考えてはどうか。</p>
川鍋委員	<p>文化人材育成プログラムについては、毎回専門の方で高知では聞けないような方の話が聞けるので、大変ありがたいと思っている。</p> <p>ZOOM がメインで、時間も限られている中ではどうしても総論が繰り返されているような気がするが、今回の見直しで、実践編が作られるのはよいと思う。</p> <p>是非、講座の内容をアーカイブにさせていただき、いつでもアクセスできるようにしてもらえたらありがたい。</p>
吉澤委員	<p>知事や一等級の方々に文化に関する研修を受けていただきたい。</p> <p>ドイツのメルケル首相のような指導者に県の方々になってほしいと思っている。トップの方が文化的な人でないと文化は育たないと考えている。</p>
	以上